

題名は芸術だ！

55期生

I テーマ設定の理由

近ごろ僕は作品そのものより、題名に強くひかれることが多くなりました。例えば本なら、タイトル次第で開いてみたい気持ちの度合も変わります。音楽なら「僕の背中には羽根がある」という歌なんてタイトルを見ただけで、すぐ聴きたくなりました。

これはきっと何かあるに違いありません。必ずその秘密を解明したいと思いました。

II 研究方法

〈分野のしぼりこみ〉

- ◇タイトルが意味をもつ分野 ①本
②映画
③音楽
④テレビ番組

- ◇しぼりこみの条件 ①昭和と平成の作品であること。
②話題になった作品である。
③価値ある賞を受賞した作品である。

- 以上の3点でしぼりこむと ①は芥川賞受賞作と新美南吉文学賞受賞作
②はアカデミー賞作品賞受賞作
③は日本レコード大賞受賞曲

◇附中生の題名に対する意識を研究する。(どんな題名が好きかアンケートする)

〈研究の手順〉

1. 予想を立てる
2. 図書館で調べる
3. 2の結果をまとめる
4. 遠方へのアンケートの発送
5. インタビュー
6. 4と5の結果をまとめる
7. 結論
8. 考察・感想

Ⅲ 調査・研究内容 ～売れるタイトルのナゾを解く～

〔分野別にナゾを解く〕

◆文学（芥川賞の場合）

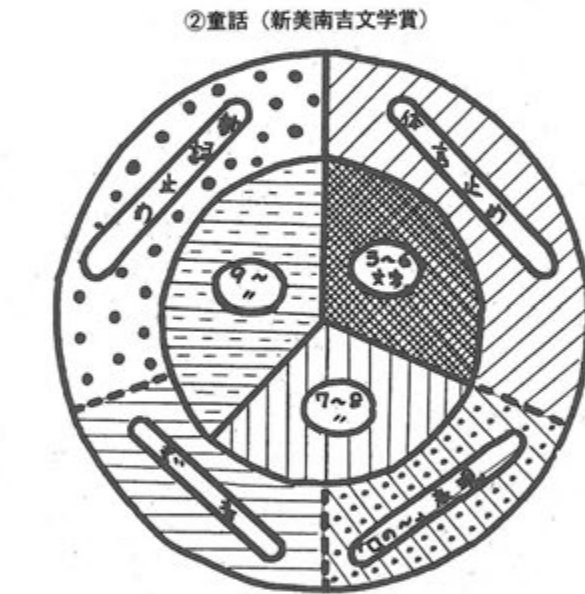
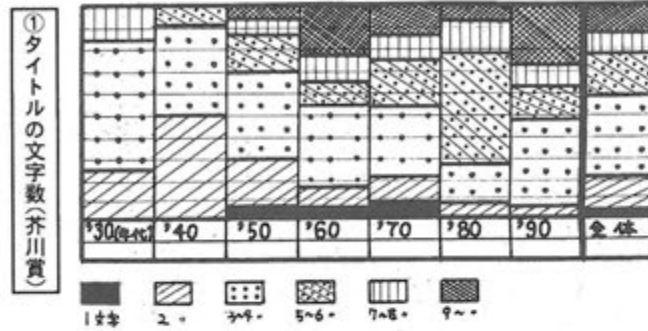
①のグラフで分かるように時代とともにタイトルが長くなってきている。ただし90年代は長・短両極端になっている。

◆文学（新美南吉童話賞）

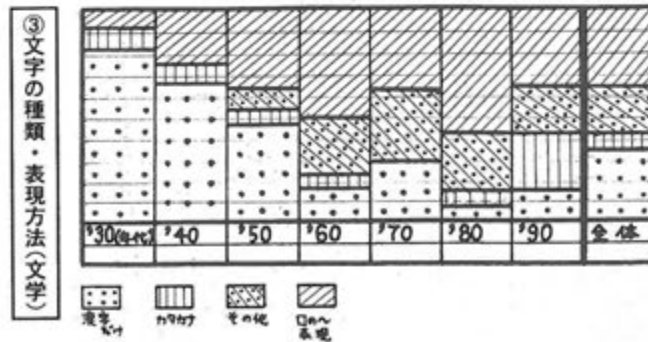
②のグラフのとおり、芥川賞と違い対象が子供のため内容が推測できるような説明的なタイトルが多い。文章的で長くて分かりやすい表現（動詞・ぎ音多用）のため、リズムや五・七調にとらわれていない。

◆表現方法（文学）

③のグラフから、漢字だけのタイトルは、文学ではほぼ絶滅したことが分かる。かわりにカタカナや「?の～」表現が増え、具体的で内容が想像しやすくなった。



タイトルの表現技法



◆映画（アカデミー賞）

④のグラフで、60年代から急激に長いタイトルの映画が増えたことが分かる。

〈例〉「サウンド・オブ・ミュージック」
「シンドラーのリスト」

⑤、⑥のグラフから、文学と同じ様に「?の～」表現が増えている。

〈例〉「普通の人々」

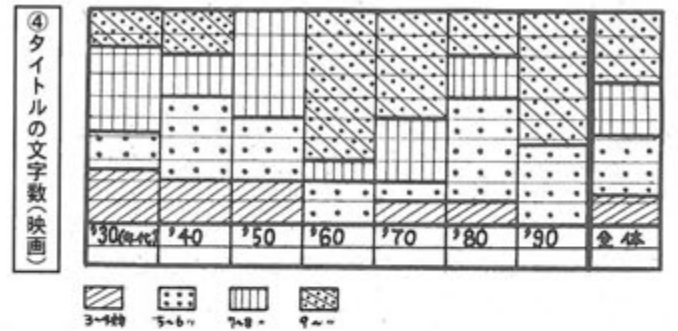
「炎のランナー」

また漢字使用が減って、英語の発音をそのままカタカナ表現にしたタイトルが増加している。

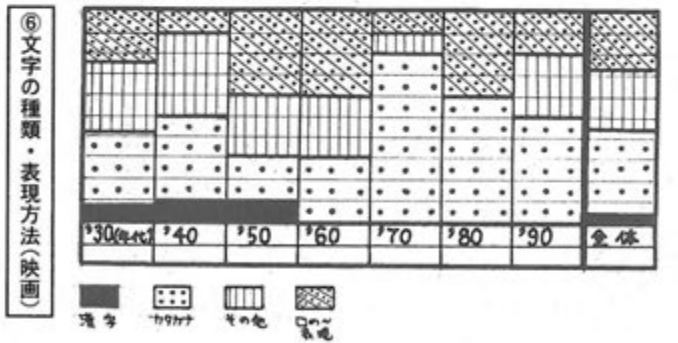
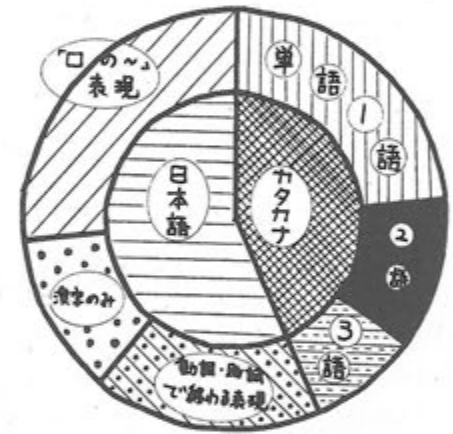
〈例〉「クレイマー・クレイマー」
「ダンス・ウィズ・ウルブズ」

※日本語に訳した題名は消えつつある。意味が分からなくても、見た目がカッコいい題名の方がうけるからだと思う。

〈例〉「風と共に去りぬ」の方が（ゴーン・ウィズ・ザ・ウィンド）より僕は好きなのに……。もうこんな時代は終わってしまうのだろうか。日本語の持つ美しさ、響きを映画のタイトルの中にぜひ残してほしい。



⑤アカデミー賞作品賞



◆音楽（レコード大賞）

⑦のグラフから、英語表現のままタイトルにしたものが急増した。また短い題名も増える傾向にある。

（理由）

意味が分からなくても、歌は耳ざわりが良ければいい。見ばえも若者には英語のままの方がかっこよく映るのだと思う。

〈例〉「CAN YOU CELEBRATE」

「TSUNAMI」

「Don't wanna cry」

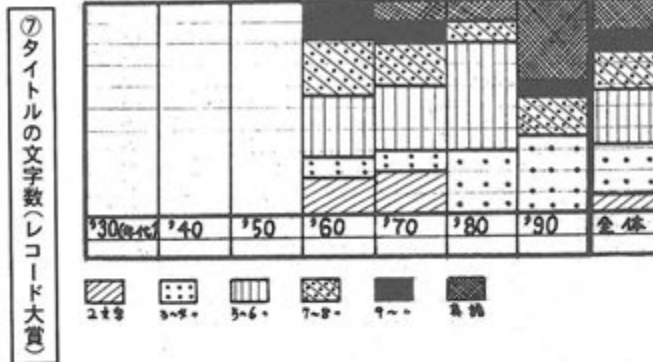
⑧のグラフから、意外にも体言止めが半分ほどしかないことが分かる。

英語タイトルとともに、「?」の「～」表現が多いのは、かっこよさと、耳で聴いてイメージをふくらませることのできる、分かりやすい題名が求められているのだと思う。

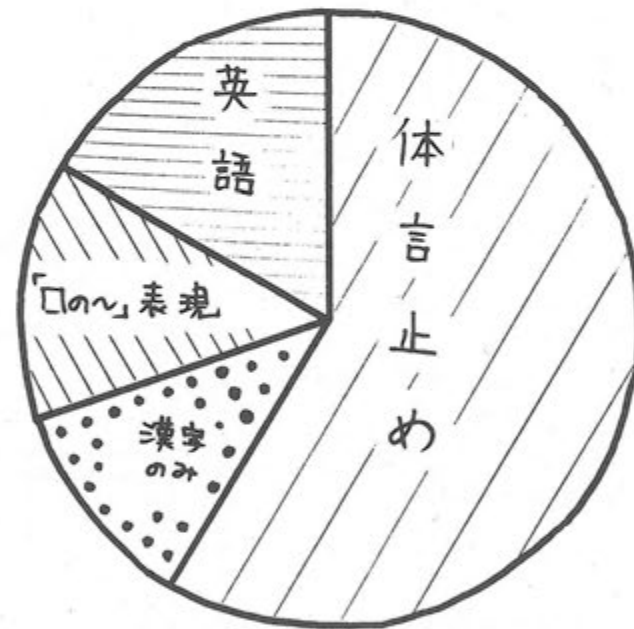
〈時代による題名の特徴の変化〉

1960年代から1980年代まで、漢字だけのものが一番多かったが、1990年代になると、英語表現がたくさん増えた。1990年代のレコード大賞受賞作品の半分以上が、英語の題名である。サブタイトルもついてきた。

〈例〉Overnight Sensation ～時代はあなたに委ねてる～



⑧レコード大賞受賞作品



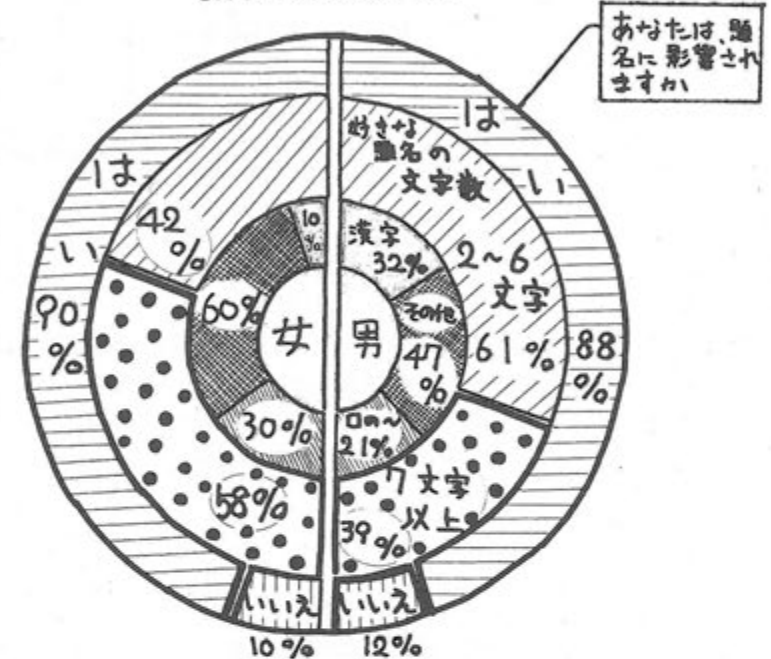
〔附中生の題名に対する意識調査〕

1年A組のたくさんの人たちと陸上部の先輩の皆様からアンケートの回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

⑨のグラフより

- ①題名の影響について、ほとんどの人が影響されている。
- ②題名の長さについて、2～6文字の短いタイトルと7文字以上の長いタイトルがほぼ半々だった。
- ③表現技法について、漢字の題名を好む人は全体の2割にすぎず、ここでも「?」の「～」表現を好む人の方が増えている。

⑨附中生の好きなタイトル



【男女別による特徴】

(1)男子の場合

漢字を何よりかっこいいと思う傾向があり、漢字だけのタイトルを好む人も多かった。長い題名よりも比較的短くて抽象的な表現に人気があった。英語のタイトルやひらがなまじりの具体的なタイトルはかっこいいとは思わないようだ。

(2)女子の場合

漢字は人気がなく、英語やひらがな、「?」の「～」表現が好まれる。男子よりも全体的に長いタイトルに人気があった。かっこよさよりも、「かわいくて美しくてオシャレ」な題名といえば英語になるのである。

【学年による特徴】

明確な違いは表れてこなかったが、印象として学年が上がるにつれて大人っぽい題名、英語表現、抽象的題名が好まれる傾向にあると思える。

IV まとめ

【解明】⑩のグラフより

秘密はこれだ!!

売れるカギ(i) より長く!

(分かりやすく)

(ii) より易しく!

(ひらがな多用)

(iii) 文章的に!

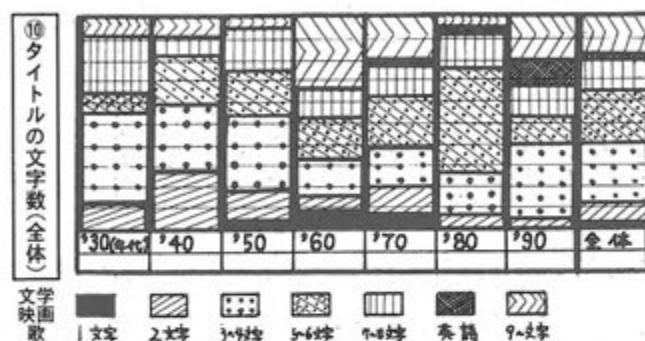
(動詞・助詞止め)

(iv) 英語を使え!

(サブタイトル)

(1)時代とともに売れるタイトルは変化する!

(2)対象に応じて、タイトルも変化させよう!



題名のつけ方は時代とともに変わる要素が多い。(長さ・表現技法など)

しかし、分野の違い、対象としている層の違いで特徴はあっても、表現の仕方は昔も今も変わらないこともある。視覚的(映画)と聴覚的(音楽)という分野の違い、大人と子供という対象年齢の違いで、必要な表現技法は違っても、それぞれの分野ごとに、つけ方に表れる送り手から受け手に対する思いはいつも同じだと感じた。

V 課題

- ① もっと正確な研究するために、より多くの分野で、現場の声(著者・監督・会社の宣伝の人)も聞く予定だったのに、インタビューやアンケートの日程を自分勝手に設定していたために、結局時間的な余裕がなくなりできなくなった。
- ② 調査したことがあちこちに飛んだために、最後にそれらを決められた時間、決められた枚数にまとめる段階で焦点がしぼりきれなかった気がする。
- ③ グラフを単色で表現するときに工夫が足りずに見づらくなってしまった。

VI 感想

テーマを設定したときに僕の知りたかったことは、かなりの部分で答えにたどりついた。ただ、研究の途中で、もっと他の分野やもっと深い事に興味が出てきて、結局時間的に中途はんばで終わり、今回発表できなかった事もたくさんありくやしかった。

題名はわずか10文字足らずの中に、それを世の中に送り出す人の期待・姿勢・願い・メッセージが込められているのだ、と感じられた。

僕が今日まで何かを発表するとき、もっと真剣にタイトルを考えていたら、伝わり方もきっと違っていたのではないかと今さらだけど残念だ。いい加減な、適当な題名は内容までいい加減に思えて、我ながらとても恥ずかしくなった。それほど題名は魔法のような力を持つ芸術品でなければ作品は成功しないのだ。

VII 参考文献

- ①最新文学賞事典
- ②アカデミー賞 川本三郎(中公新書)
- ③映画音楽への招待 宮本 啓(丸善ライブラリー)
- ④タイトル情報辞典(小学館)
- ⑤朝日新聞縮刷版(1959~2000)